

機関番号 : 1 2 4 0 1

研究種目 : 基盤研究 ( B )

研究期間 : 2 0 0 9 ~ 2 0 1 1

課題番号 : 2 1 3 2 0 0 4 6

研究課題名 (和文) 古典籍の書写と書写環境の相関性に関する総合的研究

研究課題名 (英文) Syncretic Research on Correlations between Transcriptions of Classical Texts and the Practical Conditions of their Transcription

研究代表者

武井 和人 (TAKEI KAZUTO)

埼玉大学・教養学部・教授

研究者番号 : 8 0 1 5 4 9 6 2

研究成果の概要 (和文) :

本研究の当初の目的は、古典籍の書写が書写環境にどのような影響を受けるか、というものであった。そこで、具体的な古典籍を選択し、その書写実態、典籍としての位置付け、本文の問題、などを、書写環境との相関性を考慮しつつ、具体的に考察することとした。

一方、はからずも、数点の新出資料を入手することが出来た。その多くは著者自筆本、また、孤本であったりして、学術的価値は極めて高いものであった。これらを学界に紹介する際にも、上記問題意識を持ちつつ、研究成果を口頭発表・論文等で公表出来た。

研究成果の概要 (英文) :

The initial object of this research program was to ascertain how the transcription of classical texts was affected by the environment (practical conditions) within which transcription actually took place. With this in mind, specific texts were selected and studied in regard to the condition of their transcription, their status as classical texts, bibliographical questions, and other factors correlating to the environment of their transcription.

In the course of this research, several new manuscripts unexpectedly came to light, many of them holographs and, in some cases, unique exemplars, all of very great scholarly significance. The above materials and research results were reported, within the framework of the aforementioned research program, in public conference presentations and publications.

交付決定額

(金額単位 : 円)

|            | 直接経費      | 間接経費      | 合計         |
|------------|-----------|-----------|------------|
| 2 0 0 9 年度 | 3,300,000 | 990,000   | 4,290,000  |
| 2 0 1 0 年度 | 3,000,000 | 900,000   | 3,900,000  |
| 2 0 1 1 年度 | 2,900,000 | 870,000   | 3,770,000  |
| 年度         |           |           |            |
| 年度         |           |           |            |
| 総 計        | 9,200,000 | 2,760,000 | 11,960,000 |

研究分野 : 日本文学・書誌学・古典籍学

科研費の分科・細目 : 文学・日本文学

キーワード : 古典籍、自筆本、十市遠忠、一条兼良、伊勢物語愚見抄、三田葆光

## 1. 研究開始当初の背景

多くの古典研究者は、古典籍をいわば所与のものとして認識してきた。このこと自体、そもそもひとりひとりの研究者がある作品なり作者を対象をしぼって研究を始める時、作品の伝本が所与のものとしてそこに存在することは、まことに自然なりゆきであるから、なんら非難されるべきものではない。

しかし、ひとたび、『典籍を書写する』という行為の意味を、個々の作品研究のしがらみから一旦切り離して、それ自身として内省してみるに、そこに『書写すべき何らかの必然性』があったことに想到するだろう。そして、書写という行為が、ある個人が、さまざまな時間的・空間的制約のもとになすことからである以上、その必然として、書写者を取りまく環境の厳然たる影響下にあることは否めない。

## 2. 研究の目的

本研究では、上記の如き問題意識のもと、この問題を「古典籍はそれが書写された環境にいかん影響を受けるか」という問題意識のもとにとらえ直し、個々の古典籍が書写された折の環境を、可能な限り厳密に復元・考究し、典型的な事例及び考究を一つ一つ積み重ね、それらを総合的に統合することで、古典籍書写における環境論という、従来まではほとんど研究が進んでいない新たな学問領域の構築を目指す。

## 3. 研究の方法

上記の如き究極的な目的はあるものの、しかし、3年間の研究期間では、新たな学問領域を完全に作り上げることは恐らく不可能であると考え、当面、本研究に関わる個々の研究者が〈古典籍書写と環境〉という問題意識を明確に認識しつつ、個々の研究テーマに即して成果を出す、というところに重点を置くこととした。

またはからずも、研究期間内に、後述するような重要な新出資料を複数入手することが出来、それらを学界に紹介することとなったが、その折にも、〈古典籍書写と環境〉という視点を意識的に盛り込むこととした。

## 4. 研究の成果

(1) 計5回、研究会を開催した。

研究成果の共有をはかるとともに、論文の礎稿作成も企図する。以下、必要に応じて発表要旨を付した。

①2009年 9月18日・第1回研究会

於：埼玉大学・東京ステーションカレッジ(TSC)

(1) 武井和人 「《袋綴》 搜索願」

〈要旨〉

和書における袋綴（大和綴を除外して考える）の遺品で、最古のものはたして何なのか、という問題提起を行い、併せて、袋綴装の「意義」についても私見を述べた。

(2) 石澤一志 「堯孝門弟「周興」の書寫活動」

(3) 長沼正子 「中世の古辭書『運歩色葉集』— 靜嘉堂文庫本は三冊だった—」

(4) 李 仙喜 「對馬島宗家文庫藏『(原刊本) 捷解新語』について— 諸原刊本との異同箇所を中心に—」

②2010年3月12日・第2回研究会

於：埼玉大学・東京ステーションカレッジ(TSC)

(1) 高木 文 「十市遠忠の書記姿勢— 和歌の表記を通して」

(2) 木下美佳 「武井藏『伊勢物語愚見抄』について」

〈要旨〉

武井藏の『伊勢物語愚見抄』は、初稿本の奥書を有しつつ、注釈内容は、再稿本への過渡的な本文を存していた。そこで本発表では、武井藏本の注釈内容を初稿本・刈谷市中央図書館蔵本・再稿本と比較し、諸本における位置付けを試みた。

(3) 家入博徳 「『日本國見在書目録』に見る書寫享受の一側面」

③2010年8月27日・第3回研究会

於：埼玉大学・東京ステーションカレッジ(TSC)

(1) 久保木秀夫 「『三十六人歌合』 書陵部御所本をめぐる」

〈要旨〉

かつて存した『三十六人歌合』藤原定家真筆本の伝来を辿り、書陵部御所本（五〇一・一九）が同本の極めて忠実な模写本たることを指摘した上で、『新編国歌大観』の校訂本文からは窺知し得ないその資料的価値を明らかにした。

(2) 川島絹江 「『源氏物語』に描かれた雅樂器の繪畫表現について」

〈要旨〉

中国伝来の琴(きん)が尊ばれ、演奏された時代を描く『源氏物語』では、琴(きん)が特別な意味を持つ。だが物語の成立当時、琴(きん)は廃れ、実態がわからぬまま享受され、繪畫化されてきた。日本古来の和琴も時代とともに一般の人の目に触れぬものとなった。現存最古の国宝源氏物語繪卷をはじめ、鎌倉、室町、江戸中期までの源氏繪における琴(きん)と和琴の繪畫表現を調査し、報告した。室町末から江戸初期の土佐家粉本が特に繪畫資料として有益であった。

(3) 伊藤慎吾 「眞字本『玉藻の草紙』について」

(4) 小助川元太 「『後素集』の畫題解説と漢故事和譯— 『語園』との共通説話を中心に—」

④2011年3月18日・第4回研究会

於：埼玉大学・東京ステーションカレッジ(TSC)

(1) 武井和人 「家集前史資料二點」

〈要旨〉

新出資料である、稿本『櫛紅葉』、稿本『式子内親王集』を紹介し、刊本との関係を考証した。

(2) 石澤一志 「今川了俊筆「伊豫切」拾遺」

(3) 酒井茂幸 「三首歌會の懷紙書式について」

〈要旨〉

三首懷紙の書式は新古今時代から鎌倉末期までは三行書と二行七字が併存していたが、南北朝期に至り二行七字に定着した。歌学書では一首目の歌題を端作りに書き入れるか否かが問題となっており、伝存する遺品でも両様が見出される。

⑤2011年8月26日・第5回研究会

於：埼玉大学・東京ステーションカレッジ(TSC)

(1)山本啓介「十八番歌合について」

〈要旨〉

新出資料である埼玉大学蔵『十八番歌合』に関して、成立背景を考証した。

(2)田中幸江「江戸期の菊亭家當主今出川實種による蔵書整理と活用—『公規公記』を中心に—」

〈要旨〉

専修大学図書館で新たな伝本を見出した菊亭家第14代當主今出川公規(1638~1697)の日記『公規公記』について報告するとともに、諸本の整理を行い、伝存状況を確認した。また、後世、『公規公記』を書写した第21代當主今出川実種(1754~1801)による菊亭家の蔵書の調査・整理、目録作成について述べた。

(3)太田有希子「傳九條植通筆「源氏物語」古筆切について」

(4)武井和人「文化九年刊『式子内親王集』成立の周辺」

〈要旨〉

④-(1)の発表を継承し、稿本『式子内親王集』と文化九年刊本『式子内親王集』との関係をより徹底的に論じ、稿本を校正した清水浜臣の意図に迫った。

(2) 新出資料の学界への紹介・論考

研究スタート時、予測していた訳ではないのだが、共同研究を進めていた3年の間に、いくつかの極めて学術価値の高い新出資料を入手することが出来た。単に、本研究の目的に合致する資料であるというだけでなく、それらの過半が、著者・编者・稿者自身の資料であったという点は、力説しておきたい。

まずこれら新出資料別に、調査・研究の推移、資料的価値、学界への発表等を整理しておきたい。なお、新資料考察に関しては、本研究の趣旨を活かすために、書写環境という点を努めて重視しつつ論じている。

◆『常徳院義尚公詠草』

一誠堂書店より、2009年6月購入。埼玉大学蔵。兼良加点と表紙に書入れあり。江戸初期写。現存する義尚詠歌と一致するものがなく、義尚真詠かどうかの判断は難しいが、否定する根拠もないので、現状では義尚詠と見做しておく。孤本。

[研究成果]

武井和人・石澤一志「埼玉大学蔵『義尚三十首和歌』(假題)一解題・影印・釋文—」(『研究と資料』62、2009・12) p33-39

◆一条兼良自筆『伊勢物語愚見抄』

思文閣より、2009年10月購入。武井蔵。古書肆目録では江戸初期写とあるも、兼良自筆と断ぜられる。兼良自筆の『伊勢物語愚見抄』は、再稿本の零本が冷泉家時雨亭文庫に所蔵されるが、本書は、伝本が少ない初稿本に属し(識語による)、かつ、完本。いままでも全くその存在が知られていなかった新出資料である。その後の検討の結果、初稿本と再稿本の中間的な位置にあるものではないかとの考えに至った。

[研究成果]

木下美佳「新出本・一条兼良自筆『伊勢物語愚見

抄』について」(中古文学会・関西部会 第二十五回例会:於 同志社大学、2010・6・26)

武井和人・木下美佳編『一条兼良自筆 伊勢物語 愚見抄 影印・翻刻・研究』(笠間書院、2011・1)

◆十市遠忠自筆『春日社詠三十首和歌』

臨川書店より、2009年12月購入。武井蔵。十市遠忠が天文3年3月、春日社に奉納すべく詠出した三十首及び夢想三十一首。この詠草の草稿が尊経閣文庫蔵『詠草中書』に収められており、比較対照することで、推敲過程が析出出来る。孤本。

[研究成果]

武井和人「天文三年三月の遠忠一架藏遠忠自筆『春日社詠三十首和歌』の紹介をかねて—」(和歌文学會東京例会:於 玉川大学、2010・5・15)

武井和人「十市遠忠『春日社詠三十首和歌』攷」(『國語國文』2011・8) p1-17

◆大館尚氏自筆(歟)『(文明十七年三月三月廿四日)十八番歌合』

思文閣より、2010年7月購入。埼玉大学蔵。従来全く存在を知られていなかった新出の歌合。足利義尚周辺で張行されたものと思われる。詠者の一人、大館尚氏筆か。孤本。

[研究成果]

武井和人・山本啓介「埼玉大学蔵『十八番歌合』—略解題・影印・釋文—」(『研究と資料』64、2010・12) p13-33

◆三田侏筆・黒川真道書入『(三田葆光著)櫛紅葉』稿本

東京古典会にて、2010・11月落札。武井蔵。三田葆光著『櫛紅葉』(私家版、明治45・6刊)の稿本。他撰本私家集がどのように作られて行くのか、その裏事情を知りうる貴重な新出資料。孤本。

[研究成果]

武井和人「三田葆光『櫛紅葉』攷—刊本と稿本—」(『研究と資料』65、2011・7) p27-36

◆清水浜臣書入『(稿本)式子内親王集』

一誠書店堂より、2010・12月購入。埼玉大学蔵。文化九年刊本の下書本。浜臣によって校正過程で底本が変更されている稀有な事例。新出。孤本。

◆『式子内親王集』(江戸初期写)

一誠堂書店より、2011年6月購入。武井蔵。伝本が少ない第3類bに属するもの。第3類b本の祖型を想定する上で貴重。新出。

[研究成果]

武井和人「式子内親王集』第三類b本再攷—附架蔵本紹介—」(『研究と資料』67、印刷中)

(3) 本文研究との接点

書写と書写環境がどのように関わり合うか、といふ視点を考慮しつつ、本文研究はどのようなすべきかという点について、検討を進めた。具体的な研究成果は以下の通り。

\*武井和人「校勘をめぐる一試論—あぢさえ・あぢさゑ・あづさえ・あづさゑ—」(『埼玉大学紀要 教養學部』45-1、2009・9) p37-47

〈要旨〉

冷泉家時雨亭文庫蔵定家監督書写『拾遺愚草』の特異な異文をとりあげ、その本文が発現する背景と、その本文が以後どのように継承されて行った

か、という点を考察した。

\*武井和人「遠忠書寫系統『李花集』再攷」(『日本アジア研究 [埼玉大學大學院文化科學研究科博士後期課程紀要]』8、2011・3) p203-218

〈要旨〉

十市遠忠が書写した『李花集』は、享禄3年本・享禄4年本と、遠忠筆本が2本伝存している(尊経閣文庫蔵)。各々の書写過程を考察し、その上で本文異同をどのような位置付けとして認識すべきかを論じた。

## 5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計10件)

- ①武井和人、二條良基と一條兼良 その遠景、小峯和明監修・前田雅之編『中世の学藝と注釋 [「中世文學と隣接諸學」シリーズ]』[竹林舎9] 所収、2011、p70-90、招待論文
- ②武井和人、十市遠忠『春日社詠三十首和歌』攷、國語國文、80-8、p1-17、2011、査読・有
- ③武井和人、三田葆光『櫛紅葉』攷一刊本と稿本一、研究と資料、65輯、p27-36、2011、査読・無
- ④武井和人、遠忠書寫系統『李花集』再攷、日本アジア研究 [埼玉大學大學院文化科學研究科博士後期課程紀要]、8、p203-218、2011、査読・無
- ⑤武井和人・山本啓介、埼玉大學蔵『十八番歌合』一略解題・影印・釋文一、『研究と資料』、64輯、p13-33、2010、査読・無
- ⑥武井和人、東山御文庫蔵『後成恩寺禪閣行跡』一略解題・釋文一、研究と資料、63輯、p35-39、2010、査読・無
- ⑦武井和人、遠忠歌の一背景一「寄櫛戀」題詠歌をめぐって一、研究と資料、63輯、p41-50、2010、査読・無
- ⑧武井和人、校勘をめぐる一試論一あぢさえ・あぢさゐ・あづさえ・あづさゐ一、『埼玉大學紀要 教養學部』、45-1、p37-47、2009、査読・無
- ⑨武井和人、冷泉家本『伊勢物語』は金澤文庫本か一金澤文庫本來歴臆斷一、研究と資料、62輯、2009、p3-8、査読・無
- ⑩武井和人・石澤一志、埼玉大學蔵『義尚三十首和歌』(假題)一解題・影印・釋文一、研究と資料、62輯、p33-39、2009、査読・無

[学会発表] (計2件)

- ①木下美佳、新出本・一條兼良自筆『伊勢物語愚見抄』について、中古文学会・関西部会 第二十五回例会：於 同志社大学、2010・6・26、事前審査・有
- ②武井和人、天文三年三月の遠忠一架藏遠忠自筆『春日社詠三十首和歌』の紹介をかねて一、和歌文學會東京例会：於 玉川大學、2010・5・15、事前審査・有

[図書] (計2件)

- ①武井和人・木下美佳編、『一條兼良自筆 伊勢物語 愚見抄 影印・翻刻・研究』、笠間書院、418頁、2011
- ②武井和人編、『日本古典くずし字解讀演習』、笠間書院、34頁、2010

※大学生向け教科書、収集した典籍の図版所掲

[産業財産権]

○出願状況 (計 0件)

○取得状況 (計 0件)

[その他]

## 6. 研究組織

### (1) 研究代表者

武井 和人 (TAKEI KAZUTO)  
埼玉大学・教養学部・教授  
研究者番号:80154962

### (2) 研究分担者

川島 絹江 (KAWASHIMA KINUE)  
東京成徳短期大学・言語文化コミュニケーション科・教授  
研究者番号:70177674

### (3) 連携研究者

久保木 秀夫 (KUBOKI HIDEO)  
鶴見大学・文学部・講師  
研究者番号:50311163  
小助川 元太 (JOSUKEGAWA GANTA)  
愛媛大学・教育学部・准教授  
研究者番号:30353311  
新美 哲彦 (NIIMI AKIHIKO)  
ノートルダム清心女子大学・文学部・准教授  
研究者番号:90390492  
石澤 一志 (ISHIZAWA KAZUSHI)  
目白大学・社会学部・専任講師  
研究者番号:30507752  
田中 幸江 (TANAKA YUKIE)  
二松學舎大學・文学部・非常勤講師  
研究者番号:30445720

### (4) 研究協力者

池和田 有紀 (IKEWADA YUKI)  
宮内庁書陵部  
酒井 茂幸 (SAKAI SHIGEYUKI)  
龍谷大学・仏教文化研究所・研究員  
伊藤 慎吾 (ITO SHINGO)  
恵泉女学園大学・人文学部・非常勤講師  
豊田 恵子 (TOYOTA KEIKO)  
宮内庁書陵部  
山本 啓介 (YAMAMOTO KEISUKE)  
新潟大学・教育学部・准教授  
研究者番号:50601837  
中村 健太郎 (NAKAMURA KENTARO)  
国文学研究資料館  
木下 美佳 (KINOSHITA MIKA)  
大阪大学・大学院・文学研究科・博士後期課程  
家入 博徳 (IEIRI HIRONORI)  
國學院大學・文学部・非常勤講師  
研究者番号:20586507